



インドネシア

BOP層家庭訪問調査レポート

- 調査実施日：2013年11月
- 調査場所：南ジャカルタ市
- 調査対象：ヌルヤティン(仮名)さんの一家
- 換算レート：100インドネシアルピア≒0.86円(2013年11月末)



ヌルヤティンさんの一家



家族構成	夫と小学2年生の子供の3人家族。
世帯収入	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯収入は1日6～7万ルピア ヌルヤティンさんが1日2万ルピア程度 夫が1日4～5万ルピア程度 ・毎月10万ルピアの仕送り(ヌルヤティンさんの兄より)
職業	ヌルヤティンさん：お菓子を近所に売り歩く 夫：バイクタクシーの運転手

ヌルヤティンさんについて

中ジャワ州テガルの出身。小学5年生のときに、父に連れられてジャカルタに出てきた。アラブ人を通じてサウジアラビア大使館でベビーシッターとして1年半働いた後は、家の使用人として働くようになった。

仕事・収入

ヌルヤティンさんは、お菓子を近所に売り歩いて生計を立てている。お菓子は自分で作るのではなく、商人から毎日仕入れる。1個200ルピアの収入で、仕入れは昼と夜の2回で、1日に100個ほど売る。近所ではそれなりにけっこう売れるらしい。

ヌルヤティンさんが1日2万ルピア程度、夫が1日4～5万ルピア程度の稼ぎなので、世帯収入は1日6～7万ルピアである。

家族構成

夫と小学2年生の子供の3人家族。夫はバイクタクシーの運転手だが、渋滞になって初めて客が来る状態である。ヌルヤティンさんの兄がまだテガルにおり、毎月10万ルピアの仕送りがある。



住居

家には5年前から住み、毎月25万ルピアの家賃を大家に支払っている。部屋は1部屋の中に二段ベッドとテレビが置かれ、リビング兼寝室となっている。夫は床に寝るそうである。全部で15～20㎡程度の狭くて薄暗い家である。リビング兼寝室の脇には台所スペースがある。鍋や釜などは一応そろっているが、その日に必要な分だけを調理している。



家の入口



リビング兼寝室の二段ベッド



暑さをしのぐための扇風機



リビング兼寝室に置かれたテレビ

家電製品など

カラーテレビがあり、クレジットで購入したが、すでに返済済みである。また、バイクもクレジットで購入したが、これも7年かけて返済した。夫のバイクタクシー用として大事な資産になる。



JETRO

電気、水道など

電気は毎月6万ルピアを支払うが、住民と一緒にまとめて払う。各家庭に電気メーターはついておらず、各戸ごとに払う仕組みにはなっていないようである。まとめたものを国営電力会社(PLN)へきちんと払っているのかどうかについては、確認できなかった。

水は、手押しポンプで汲み上げた地下水を使う。料金の支払いは特にないが、ポンプが壊れたら、住民がお金を出し合って修理する。

ヌルヤティンさんの家にはトイレはなく、他の住民と一緒に共同トイレを利用している。



住民が共同で使う手押しポンプ



食事

質素な食事

ヌルヤティンさんの家の食事は、ありあわせのもので間に合わせている。タンパク質源として、テンペ(インドネシア風の納豆)や豆腐は食卓に欠かせない。ときどき卵や鶏肉を食べる。

野菜は炒めたり、スープにしたりして食べる。パサール(市場)へはほとんど出かけず、家の近くのワルン(小さな商店)で買う。



洗濯物のすぐ隣に台所スペース



台所スペースの鍋や釜



野菜を売る近所のワルン



ガス代以外に灯油コンロもある

JETRO



時間

起床は午前4時である。家族にコーヒーとパンを用意して、6時頃から近所へ菓子の行商に出る。9時頃に帰って、仕入れ先の商人に代金を渡す。その後、昼間は調理をして食事。午後3時から夕暮れまで再び近所へ菓子を売りに出る。就寝は午後11時頃、食事は1日に2回である。

子供は午後が学校で、12時頃出かけて午後3時頃帰宅し、夜8時には寝る。

夫は朝出かけ、道路が渋滞するのを待つ。いったん家へ帰って、再び、午後3時頃から夕暮れまで、道路が渋滞するのを待つ。

訪問後の感想

ジャワ島の地方からジャカルタへ出てきて、そのまま住みついた人々の居住環境は、ジャカルタの中心部に近いとはいえ、水道も電気も整っていない、厳しい状況にある。おそらく、彼らの居住する土地自体が不法占拠で、それが長年にわたって継続して既成事実化したためであろう。そのため、行政側から改善するアプローチがなかなか採れない。よそ者同士が集まった所では、コミュニティとしてのまとまりもあまりよくないが、生活上の必要から最低限の協力はしていかなざるを得ない。

今回の家庭訪問で注目したのは、テレビやバイクをクレジットで購入し、それを完済していることである。収入がかなり低いにもかかわらず、返済をしっかりと行うこうした人々の態度は、マイクロファイナンスなどでのBOPビジネスの可能性を感じさせる。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。